

令和7年度 学校経営計画（全日制課程）

令和7年4月1日

東京都立橋高等学校長

佐々木 敏治

1 目指す学校

本校は、都立向島工業高等学校と都立向島商業高等学校とを発展的に統合し、産業科高校という新たなタイプの専門高校として、平成19年4月に開校した。以後、地元産業界をはじめ墨田区等の関係機関のご支援を受けながら、今年度19年目を迎える。本校は、全国的にも数少ない「ものづくりから、流通・販売まで」を総合的かつ実践的に学ぶ産業高校である。よって、これまでの設立の経緯を踏まえながら、生徒、保護者のニーズに応え、進学にも、就職にも対応できる学校として、更なる教育活動の充実を図り、「地域の誇り」となるような学校づくりを推進していく。

（1）スクール・ミッション

社会の変化に適応して自ら成長し続け、自立して生き抜く人、地域や社会で産業人として活躍できる人、人に感謝し感謝される人、規範意識と社会性を身に付けた人、高き理想（志）を掲げ、その夢の実現のために積極的に挑戦する人を育成します。ものづくりから、流通・販売までを総合的・実践的に学び、伝統工芸に関心の高い、産業人として活躍できる生徒を育成する。

（2）スクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

- ・産業界や地域との連携を図り、産業人として活躍できる実践的な能力を育む。
- ・学校行事や部活動を充実させ、学校生活を有意義に調和のとれた豊かな人間性を培う。
- ・集団生活における規範意識を身に付けさせ、他者を敬い、礼儀や規律を尊重する態度を育む。

② カリキュラム・ポリシー

- ・生徒や保護者のニーズを的確に把握し、進学希望にも就職希望にも対応できる進路指導を行う。
- ・社会の変化に柔軟に対応するとともに、キャリア教育、国際理解教育、人権教育を充実させる。
- ・伝統工芸教育推進校としての産業科高校の特長を活かし、社会構造の変化を見据えた学校像をデザインする。

③ アドミッション・ポリシー

- ・努力をいとわず、責任感をもち、粘り強く積極的に問題解決に取り組むことができる。
- ・社会に貢献するという志をもち、弱者に対する思いやりをもつことができる。
- ・将来、産業界に貢献すること、伝統工芸の技や文化を守ることができる。

2 中期目標と方策

- （1）地域社会や産業界と連携し、産業人としての実践的な能力を育む。【学習指導、進路指導】
- （2）「都立高校改革推進計画・新実施計画（第二次）」に基づき、伝統工芸や匠の技に対する興味・関心を高める取組を推進する。【学習指導】
- （3）生徒や保護者のニーズを的確に把握し、進学にも就職にも対応できる進路指導を推進する。【進路指導】
- （4）部活動や学校行事を充実させ、学校生活に潤いを与え、調和のとれた豊かな人間性を培う。【特別活動】
- （5）集団生活における規範意識を身に付けさせ、礼儀や規律を尊重する態度を育む。【生活指導】
- （6）生涯にわたって健康な生活が営まれる基盤をつくるため、体力を向上させ、健康教育を推進する。【健康づくり】
- （7）社会の変化に対応した教育活動を行うとともに、キャリア教育を充実させ、国際理解教育、人権教育を推進する。【学習指導、進路指導、特別活動】
- （8）いじめや体罰を根絶するために、教員と生徒の信頼関係を築き、生徒が安心して学校生活に取り組める環境を構築する。【生活指導】
- （9）学校情報を積極的に発信し、家庭や地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。【広報・募集活動】
- （10）教職員の健康増進とライフ・ワーク・バランスの確立を図るため、業務の効率化・平準化を推進する。【学校経営・組織体制】

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

学習指導

- ① 生徒による授業評価及び校内研修を年2回実施し、指導方法、授業内容の工夫・改善を図る。
- ② 教員授業参観（校内、他校）を積極的に行い、指導方法の工夫・改善を図る。
目標：授業参観一人4回以上（前年度：一人平均3回、前々年度：一人平均3回）
- ③ 学力スタンダード・技能スタンダードに基づいて、定期的に指導方法の検証を行い、生徒の学力向上や技能の習得に向けた指導を行う。
- ④ 生徒の興味・関心を高め、わかりやすい授業を展開するために、ICTや視聴覚機器などを積極的に取り入れた授業を行い、オンライン授業を充実させる。（ICT活用率：前年度90%、前々年度94.5%）
- ⑤ 図書館の活用を促し、調べ学習や主体的学習を積極的に行わせるため、各教科で年間1回以上、図書館を利用した授業を実施する。
（教科等での図書館利用時間数：前年度74時間、前々年度167時間）
- ⑥ 講習・補習・宿題等による指導を充実させ、学力の向上を図る。
目標 土曜講習・長期休業中講習・放課後等講習 200講座以上開講
（前年度：110講座、前々年度：310講座）
- ⑦ 習熟度別授業や少人数授業の展開及び特別専門講師の積極的な活用を行い、「わかる授業」、「魅力ある授業」、「多様な生徒のニーズに対応した授業」を実施する。
習熟度別授業：国語、数学、英語
少人数授業：芸術、専門科目、体育、家庭
- ⑧ 学習意欲の向上のため、皆勤者・精勤者、成績優秀者や各種資格取得者等に対し、積極的に表彰を行う。
- ⑨ 語学力、コミュニケーション能力の向上のため、レシテーションコンテストはじめ英語による様々な言語活動を実施するとともに、ALT・JETによる授業を充実させ、「使える英語力」を身に付けさせる。
- ⑩ 「課題研究」のテーマを、作品制作、調査研究など、思考や表現を重視した探究的な内容となるよう検討・改善する。
- ⑪ ものづくり・ビジネス・ITを融合して学ばせる学校設定科目や特別活動等を研究開発し、「経営のわかるエンジニア」、「ものづくりのわかるビジネスマン」を育成する。
- ⑫ 実技・実習授業における安全指導を徹底し、事故の未然防止を図り、危険予測力をより高める。

進路指導・キャリア教育

- ① 希望進路の実現のため、最後まで挑戦する指導を行い、卒業時の進路決定率を100%とする。
（前年度：100%、前々年度：100%）
- ② 進路指導部が中心となって学年と連携しながら「高校3年間の進路指導計画」を立案し、1年次からの進路指導を組織的・計画的に実施する。
- ③ 「人間と社会」「起業家精神と職業生活」「地域産業論」の内容を一体的に見直し、より効果的なキャリア教育を展開する。また、地元墨田区との地域連携を密にして、「人間と社会」の授業を充実させる。
- ④ 様々な機会を捉えて地域等と連携しながら、生徒による販売活動を年2回以上体験させる。
（前年度：1回、前々年度：0回）
- ⑤ 大学入試制度改革を踏まえ、生徒のポートフォリオ作成や英語検定のあり方を検討・対応する。

生活指導

- ① 全校集会や学年集会等を通して、集団生活における規範意識や学校への帰属意識を高める指導を徹底する。
- ② 薬物乱用防止、交通安全、SNSの健全利用等のセーフティ教室を実施し、生徒の安全教育を充実させる。
- ③ 身だしなみ指導を登校時や授業開始時等、日常的（毎日）に行い、服装、頭髮、ピアス等の指導を全教職員が一丸となって徹底指導する。また、高校生として爽やかな身だしなみを目指し、日常的に制服の着こなしに関する指導を徹底する。
- ④ 年2回、挨拶週間を設けるなどして、挨拶指導を徹底し、自ら進んで挨拶の出来る生徒を育成する。
- ⑤ 生徒全員面談を年2回以上設定し、生徒状況の把握に努める。
- ⑥ 産業人としてふさわしいビジネスマナーを身に付けさせるため、全教職員で指導に当たる。

- (例：授業時、職員室入室時など、様々な場面において、身だしなみ、言葉遣いなどの指導に当たる。)
- ⑦ 自転車通学者に対し、交通ルールやマナー、自らの命を守るためのヘルメット着用の指導を徹底し、自転車事故発生件数をゼロ、自転車に関する苦情を2件以下にする。
(前年度：自転車事故6件、自転車苦情10件)
- ⑧ いじめ・体罰を根絶するために、以下の取組を全校体制で行う。
ア 「学校いじめ対策委員会」を中心に、「学校サポートチーム」との連携を密に行い、いじめ問題に迅速かつ的確に対応する。また、いじめ実態把握のため、年3回アンケートを実施する。
イ 体罰の根絶に向けて、校内研修を定期的 to 実施するとともに、パートナーシップ協議会（学校運営連絡協議会）や保護者会等も活用し、説明責任を果たしていく。

特別活動

- ① 以下の特色ある学校行事について実施形態・実施方法等を工夫して充実させる。
体育祭、橘祭（文化祭）、修学旅行、レシテーションコンテスト、インターンシップ報告会
- ② 生徒会が中心となって、学校行事を主体的に運営できるよう指導する。
- ③ 年4回の避難訓練を効果的に実施するとともに、消防署や日本赤十字社、地域住民と連携した防災訓練等を実施し、防災教育の一層の充実を図る。
- ④ 国際理解教育の推進のため、以下の取組を行う。
ア 海外からの視察、訪問を積極的に受け入れる。 目標：年1回以上（前年度：0回、前々年度：0回）
イ 次世代リーダー育成道場に積極的に挑戦させる。
- ⑤ 各学期の始業式・終業式や学校行事等において校歌指導を行い、本校生徒としての自覚や帰属意識を高める。

健康づくり

- ① 学校保健計画をもとに関係機関との連携を図りながら、生徒の健康づくりを推進する。
- ② 保健室と担任、部活動顧問等が連絡を密にとり、生徒一人ひとりの健康管理に努める。
- ③ カウンセリング委員会を定期的（月1回）に開催し、スクールカウンセラーとの連携、協力を密にして、教育相談体制を整備し、生徒の心のケアを充実させる。
- ④ 1学年全員に対し、スクールカウンセラーによる面接を実施し、相談しやすい環境を整え、いじめや様々な問題行動への早期対応を図る。
- ⑤ 自殺対策に資する教育を推進することとし、「保健」の授業または「ホームルーム」の時間において、年1単位時間以上、自殺予防に資する学習を実施する。
- ⑥ 「TOKYOACTIVE PLAN for students」に基づき、保健体育科を中心に体力向上に向けた取組を企画・実施するとともに、東京2020大会レガシーの浸透を図り、スポーツに親しむ習慣を身に付けさせる。

広報・募集活動

- ① 広報・募集活動を充実させる。
ア 学校説明会4回、体験入学2回実施する。その他、ミニ見学会を平日午後に実施する。
イ 生徒による広報活動（母校訪問等）を充実させる。
ウ 学校説明会において、生徒会や部活動を活用するとともに、プレゼンテーションを工夫・改善し、内容の充実を図る。
エ 中学校・塾への精力的訪問を実施する。 目標：中学校150校以上、塾30ヶ所以上
(前年度：中学校159校、塾0ヶ所、前々年度：中学校166校、塾0ヶ所)
オ 生徒の生き生きとした活動が伝わるよう、学校案内パンフレットやホームページの内容を充実させ、インスタグラム等のSNSによる情報発信を行う。
- ② 授業公開、学校見学会等を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する。学校説明会、学校見学等の参加者延べ1900名以上を目指す。 (前年度：2418名、前々年度：1822名)
- ③ 都立学校公開講座、「わくわくどきどき夏休み工作スタジオ」、施設開放等を行い、本校の有する学校資源、教育資源を提供し、地域貢献を積極的に行う。
- ④ 出前・体験授業を5講座以上実施し、本校の特色ある授業を広報する。また、中学校への出前授業等の案内を、年度末あるいは年度当初に送付する。 (前年度：1講座、前々年度：1講座)

学校経営・組織体制

- ① パートナリシップ協議会（学校運営連絡協議会）を活用し、地域や保護者・外部機関等の意見を聞き、学校経営に反映させる。
- ② 個別面談や保護者会、三者面談等を実施し、保護者との緊密な連携を図る。
- ③ 入学式、始業式、終業式、全校集会、保護者会等、各種行事を通して、学校の経営方針を周知徹底させる。
- ④ 教科会を充実させ、学力向上に向けた授業研究・考査検討などを行い、教科としての組織的指導力を高める。
- ⑤ 都職員としてのコンプライアンスに取り組むとともに、経営企画室の経営参画をより一層推進し、経営基盤を強固なものとする。
- ⑥ 業務分担の改善、協働態勢の推進、教材の共有化など業務の効率化を進め、1か月当たり45時間超の教員の割合を0%とする。また、学校閉庁日（年間5日）を確実に実施し、全教職員が年間15日以上以上の休暇取得を目指す。
- ⑦ 都立学校発達障害教育推進エリアネットワークによる支援と研修の充実等により、全ての教員の発達障害への理解を深めることで、生徒への充実した支援を実施する。
- ⑧ 全定連絡会を定期的に開催し、全日制課程と定時制課程の連携を更に強化する。【新規】

(2) 重点目標と方策

学習指導

- ① 「拡大学年會」等の機会を設け、学級担任と教科担任が情報を常に共有し、生徒の意欲の向上と学習のつまずきの解消、生活態度の改善に努め、1、2年生の進級及び3年生の卒業率の向上を図る。
目標 進級率 95%以上 卒業率 100%
(前年度：1年進級率91%、2年進級率93.8%、3年卒業率100%)
- ② 「育成する資質・能力」のルーブリックに基づき、令和4年度から開始した新カリキュラムにおける年間指導計画等を実施する。
- ③ 全教科・科目においてオンライン授業の指導方法や教材の研究を深め、いつでも全学年でオンライン授業が実施できる体制を構築する。また、生徒の自宅と学校の両方で同時に授業を行えるよう、ハイブリット型オンライン授業を実施し、不登校生徒への授業支援を行う。
- ④ 各種検定試験を積極的に受験させ、資格取得者を増やす。補習・補講等を実施し、基礎的な検定・資格の合格率を向上させるとともに、高度な検定・資格取得にも挑戦させる。
目標 延べ800名以上 (前年度：580名、前々年度：720名)
簿記検定の合格率は3級70%以上、2級50%以上を目指す。
日本語ワープロ検定3級および情報処理技能検定3級の合格率は70%以上を目指す。
- ⑤ 図書部を中心に学校図書館の運営改善を行い、読書活動の充実を図るため、読書推進活動に全教職員で取り組む。
目標：生徒貸出冊数 年2000冊以上 (前年度：1098冊、前々年度：1898冊)

進路指導・キャリア教育

- ① 昨年度実施したインターンシップ（1年生全員対象）および橘版デュアルシステムについて、受入事業所における感染防止対策等を徹底した上で再開していく。
- ② 今後の社会情勢を見据え、教職員一丸となって進路補習や面接練習に取り組み、最後まで挑戦させる粘り強い指導を行う。

生活指導

- ① 全教員が各授業において、統一的に以下（授業規律7項目）の指導を行い、授業規律の徹底を図る。また、日常の学校生活においても学年、生活指導部等が連携し、身だしなみ改善指導週間等を実施して全教職員で指導を徹底する。
ア チャイム着席、チャイムスタート イ 始業、終業の起立・礼
ウ 始業時の身だしなみチェック エ 携帯電話・ゲーム機等の使用禁止 オ 私語の厳禁
カ 飲み物等不要物を机の上に置かせない キ 教室環境の整備（机の整列、黒板消しなど）
- ② 従来の遅刻指導を徹底した上で、遅刻改善指導週間等を実施して、「時を守る」習慣を身に付けさせる。
目標： 一日の全校平均遅刻者数50名以下 (前年度：69名、前々年度：69名)

特別活動

- ① コロナ禍により低迷した部活動を活性化し、生徒に自己有用感を持たせるために、以下の取組を行う。
 - ア 1年生を中心に、積極的参加の指導を徹底し、部活動加入率を高める。
目標 1年生100% (前年度：60%、前々年度：60%)
学校全体70% (前年度：56%、前々年度：56%)
 - イ 都大会以上出場および各種大会上位入賞の部活動を10部以上出す。(前年度：6部、前々年度：8部)
 - ウ 地域イベントへの参加など、地域貢献・地域交流の機会を増やす。
 - エ 活動の成果を積極的に表彰するとともに、予算の配付、外部指導員の配置など、人材、物品、予算面について活動実績等に基づき重点的な支援を行う。

健康づくり

- ① すべての教育活動において、生徒の健康・安全を第一とし、「熱中症予防運動指針」に則り、熱中症事故予防に向けて適切に対応する。また、食物アレルギー対応のための校内研修を実施する。
- ② 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」(文部科学省)に則り、すべての教育活動において感染症対策を徹底する。

広報・募集活動

- ① 入学者選抜における応募倍率を高める。
目標 推薦入試2.0倍以上、一般入試1.2倍以上
(前年度：推薦入試1.26倍、一般入試0.98倍、前々年度：推薦入試1.04倍、一般入試0.93倍)
- ② ホームページを充実させるとともに、SNSによる情報発信も行い、中学生やその保護者及び地域社会に向けた学校情報の発信を積極的に行う。また、伝統工芸教育に本格的に取り組むことを強くPRする。
- ③ 「学級通信」「学年通信」などを定期的に発行し、学校情報の発信を積極的に行う。また、SNSや保護者コミュニケーションシステム等を利用した緊急時における生徒・保護者への情報伝達手段を確立する。

学校経営・組織体制

- ① 伝統工芸教育の推進を継続し、ものづくり系の実習施設・設備が安全に使用できるように点検・整備を進める。
- ② 副担任の日常的な活用、行事の工夫等により、学級担任業務の負担を軽減し、OJTを推進する。また、校務の改善・効率化を図るとともに校務分掌の見直しを進める。